

## 見える化通信

日本のAI政策が本格始動！  
～基本計画と適正性確保の指針がまとまる～

昨年5月に成立した日本初のAI関連法に続いて、政府は12月にAI活用の適正性確保に関する「指針」と「基本計画」を策定しました。日本のAI政策がどのように動き出したのでしょうか。

電機連合 政策部門

AIのイノベーション促進と  
リスク管理

AI関連法(※1)が成立した背景には、AIの急速な普及に対して、国内の研究開発や社会実装が他国と比べて遅れているという危機感、誤情報の拡散やプライバシー侵害などリスクへの不安の高まりがあげられます。そこで、同法は主にイノベーション促進策とリスク管理の2つを目的とし、前者の対策としては、AI関連技術の研究開発・活用推進のための「基本計画」を、後者の対策としては、AIの研究開発や活用の適正性を確保するための「指針」を、それぞれ政府が定めるように義務づけました。(詳細は見える化通信 Vol.159)

※1：正式名称「人工知能関連技術の研究開発及び活用の推進に関する法律」(5月28日成立、9月1日全面施行)

適正性の10要素と  
4つのアプローチ

「指針」(※2)は昨年12月に閣議決定されました。指針では、AIの技術進歩とともにリスクも変化していくことから、「適正性」を明確に定義することせず、AI技術を扱うすべての主体が判断すべきものとしています。そして、判断に必要な要素として「人間中心」「公平性」「安全性」「透明性」などの10の要素を示しています。そのうえで、適正性を確保するためのアプローチとして、①リスクベースでのアプローチ、②ステークホルダーとの積極的な関与、③一貫通貫でのAIガバナ

ランスの構築、④アジャイルな対応、を示しています(図表1)。

※2：正式名称「AI関連技術の研究開発及び活用の適正性確保に関する指針」(12月19日決定)

■図表1 適正性の10要素と4つのアプローチ

適正性確保に必要な主要要素	
①人間中心	⑥セキュリティ
②公平性	⑦プライバシー・個人情報
③安全性	⑧公正競争
④透明性	⑨AIリテラシー
⑤アカウントビリティ	⑩イノベーション
4つアプローチ	
①リスクベースでのアプローチ	
②ステークホルダーの積極的な関与	
③一貫通貫でのAIガバナランスの構築	
④アジャイルな対応	

出所：内閣府資料をもとに電機連合作成

## 信頼性の高いAIで反転攻勢

「基本計画」(※3)も昨年12月に閣議決定されました。基本計画では、産業・研究分野で質の高いデータをもつ日本の強みを生かして「信頼性の高いAI」を追求し、「反転攻勢に出る」ことが明記されています。基本指針は、AIを①「使う」、②「創る」、③「信頼性を高める」、④「協働する」の4つで構成されています。

①「AIを使う」では、政府・自治体での徹底したAI活用や、社会課題解決に向けたAI活用などが挙げられ、②「AIを創る」では、国産AIモデルや研究開発基盤の強化、日本の勝ち筋としてフィジカルAIの開発加速などが挙げら

■図表2 AI基本計画の概要

人工知能基本計画(概要) ～「信頼できるAI」による「日本再興」～	
基本構想	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「信頼できるAI」を追求し、「世界で最もAIを開発・活用しやすい国」へ。</li> <li>○「危機管理投資」・「成長投資」の中核として、今こそ反転攻勢。</li> </ul>
3つの原則	イノベーション促進とリスク対応の両立、アジャイル(柔軟かつ迅速)な対応、内外一体での政策推進
4つの基本的な方針に基づく施策	データの集積・利活用・共有を促進
1. AI利活用の加速的推進「AIを使う」	世界最先端のAI技術を、適切なリスク対応を行いながら積極的に利活用。 <ul style="list-style-type: none"> <li>● 政府・自治体でのAIの徹底した利活用</li> <li>● 社会課題解決に向けたAI利活用の推進</li> <li>● AI利活用促進による新しい事業や産業の創出</li> <li>● 更なるAI活用に向けた仕組みづくり</li> </ul>
2. AI開発力の戦略的強化「AIを創る」	AIエコシステムに関する各主体での開発及び組み合わせにより、日本の強みとして「信頼できるAI」を開発。 <ul style="list-style-type: none"> <li>● 日本国内のAI開発力の強化</li> <li>● 日本の勝ち筋となるAIモデル等の開発推進</li> <li>● 信頼できるAI基盤モデル等の開発</li> <li>● AI研究開発・利用基盤の増強・確保</li> </ul>
3. AIガバナランスの主導「AIの信頼性を高める」	AIの適正性を確保するガバナランスを構築。日本国内だけでなく、国際的なガバナランス構築を主導。 <ul style="list-style-type: none"> <li>● AI法に基づく適正性確保に向けた指針、調査・助言、評価基盤となるAIセーフティ・インスティテュートの機能強化</li> <li>● ASEAN等グローバルサウス諸国を含めた国際協調</li> </ul>
4. AI社会に向けた継続的変革「AIと協働する」	産業や雇用、制度や社会の仕組みを変革するとともに、AI社会を生き抜く「人間力」を向上。 <ul style="list-style-type: none"> <li>● AIを基軸とした産業構造の構築</li> <li>● AI社会における制度・枠組みの検討・実証</li> <li>● AI人材の育成・確保</li> <li>● AI時代における人間力の向上</li> </ul>
○ 制度改革等のための省庁間連携、適切なベンチマークの設定とモニタリング、当面毎年変更	

れています。また、③「AIの信頼性を高める」では、AIセーフティ・インスティテュートの機能強化など、④「AIと協働する」では、AI時代における人間力の向上に向けたAIリスクリングの取り組み支援などが挙げられています。

電機連合では、AIの研究・開発やガイドライン整備に加え、すべての利用者のAIリテラシー向上も重要だと考えています。この点はまだ具体的な方針が示されていないため、今後の議論の進展を引き続き注視していきます。

※3：正式名称「人工知能基本計画」(12月23日決定)